

## 第3回 自転車空間研究小委員会

日時：平成20年6月7日(土) 9:00～

場所：放送大学北海道学習センター6F 中講義室

(社)土木学会 土木計画学研究委員会 自転車空間研究小委員会



## 第3回 自転車空間研究小委員会

### タイムテーブル

(1) 委員長挨拶 (09:00-09:10)

山中英生 (徳島大学): 設立の経緯など

(2) メンバー自己紹介 (09:10~09:35)

出席者: 山中、久保田、屋井、金、阿部、荒井、大森、小川、大脇、河村、近藤、鈴木、塚口、寺内、兵藤、藤原、松原、三国成、宮崎、元田、森本、和田、吉田 (敬称略)  
計 23/32 名

(3) 小委員会の活動方針について (09:35~10:05)

- ・委員会の今後のスケジュール: 事務局
- ・具体的な活動方法: 金先生
- ・ワンディセミナー企画案: 山中先生
- ・次回委員会の開催予定および議題整理

(4) 話題提供 (10:05~10:15)

「(仮)国内における自転車通行環境整備モデル事業の進捗状況について」: 大脇氏

## < 資 料 目 次 >

資料-1	委員会の活動経緯	3
資料-2	自転車空間研究小委員会の設立趣旨	4
資料-3	委員名簿	6
資料-4	研究活動分担表	7
資料-5	委員の関与事例	8
資料-6	今後のスケジュール	9
資料-7	第2回自転車空間研究小委員会 議事録(案)	10
資料-8	講演会開催記録	11

## 委員会の活動経緯

### 自転車空間研究準備委員会の設置

平成 18 年度第 1 回土木計画学研究委員会にて準備委員会の設置が承認された。

### 準備委員会活動

第 1 回 2007 年 6 月 9 日(土) 16:20-17:50 九州大学 計画学研究発表会 会議室

出席者：屋井鉄雄（東工大），山中英生（徳島大），兵藤哲朗（海洋大），金利昭（茨城大），  
浜岡秀勝（秋田大），羽藤英二（東京大），小川圭一（立命大），大脇鉄也（国総研），  
森若峰在（国土交通省）

1) 準備会設置について 2) 研究分野について 3) 活動方針

第 2 回 2007 年 7 月 23 日(月) 20:30-21:00 国土技術研究センター

出席者：山中英生（徳島大），屋井鉄雄（東工大），金利昭（茨城大），小川圭一（立命館大）

1) 委員会の体制について

第 3 回 2007 年 7 月 30 日(月) 20:30-21:00 国土技術研究センター

出席者：山中英生（徳島大），屋井鉄雄（東工大），金利昭（茨城大）

1) 研究方針について 2) 委員会運営について

第 4 回 2007 年 9 月 21 日(金) 20:00-21:00 虎ノ門パストラル

出席者：山中英生（徳島大），屋井鉄雄（東工大），金利昭（茨城大），小川圭一（立命館大）

1) 助成研究の申請について 2) 研究方針について

### 自転車空間研究小委員会の設置と第 1 回委員会開催

土木計画学研究委員会にて研究小委員会の設置が承認されたため第 5 回準備会を正式な第 1 回委員会として開催

2007 年 11 月 25 日(日) 10:30-12:30 八戸工業大学

1) 経緯説明 2) 4 名から話題提供 3) 全体質疑（詳細は別紙議事録参照）

### 委員の公募

2007 年 12 月 28 日に IPML にて公募開始（〆切：2008 年 1 月 18 日）

17 名から応募，承認，委嘱状発送，現在 32 名の委員構成。

### 第 2 回自転車空間研究小委員会の開催（講演会の開催）

2008 年 5 月 13 日(火) 15:00-16:45 共立女子大学

### 土木計画春大会企画セッション・スペシャルセッション

2008 年 6 月 6 日(土) 北海道大学

### 第 3 回自転車空間研究小委員会の開催

2008 年 6 月 7 日(土) 09:00-10:15 放送大学北海道学習センター6F

土木学会土木計画学研究委員会  
自転車空間研究小委員会の設立趣旨

### ・研究小委員会設立の背景と目的

近年の環境問題を背景とした自転車の利用促進、増加傾向にある自転車関連事故、近年の道路交通法の改正など、自転車の利用空間への関心の高まりを契機として、新たな施策展開に向けた取り組みが進められている。

しかしながら、自転車やその利用空間に関わる研究については、我が国では大きく遅れている現状にあり、これまで蓄積されてきた研究成果に加えて、空間設計や交通誘導のための基礎的な行動・挙動特性、多様な施策に対する利用者特性など、新たな施策展開に関連した科学的知見の体系化が急務となっている。

本小委員会は自転車空間に関する研究成果を共有し、知見を整理することで、実践的・実務的な成果につながる「自転車の利用空間のあり方」を工学的立場から提言することを目的とする。

### ・委員会活動

#### 1) 目的

今後の自転車研究の発展のために、研究課題を整理し、具体的な事例に適用し、手法の確立を図りながら、自転車の利用空間のあり方を中心に研究を推進する。

#### 2) 研究の内容

我が国における、自転車の利用空間（走行空間、駐輪空間）を中心に、関連する幅広い研究課題を対象とする。

##### 1 交通特性研究

運動挙動特性 選択特性（走行路）手段特性（トリップ・手段選択 etc） 駐輪特性

##### 2 空間整備研究

交通共存性、道路網構成、道路構造、交差点、接合部、駐輪システム、海外基準  
バリアフリー・UD、情報提示、サインシステム、カラーシステム

##### 3 利用者研究

高齢者 運転特性、高齢者、教育

幼児・児童・若年者 挙動特性、教育、取締

利用促進施策 MM、レンタサイクル、健康志向型・観光・周遊利用

#### 3) 小委員会の体制

代表： 山中英生（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部・教授）

副代表： 屋井鉄雄（東京工業大学総合理工学研究科・教授）

久保田尚（埼玉大学大学院理工学研究科・教授）

幹事長： 金 利昭（茨城大学工学部・准教授）

事務局： 吉田長裕（大阪市立大学大学院工学研究科・講師）

#### 4) 活動期間および内容

活動期間 2008.5～2011.5 3カ年

- 1 計画学発表会 春大会企画論文セッション開催
- 2 計画学発表会 スペシャルセッション開催
- 3 ワンディセミナー H20年度, H21年度
- 4 各都市での整備事業への助言
- 5 出版等 検討中

#### 5) 活動資金

・構成メンバー自主資金 ・科学研究費 ・新道路技術研究助成

#### 6) 小委員会事務連絡先

代表 : 山中英生 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部  
(工学部建設工学科)

770-8506 徳島市南常三島町2-1 TEL 088-656-7350 FAX 088-656-7579

E-mail: yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp

事務局: 吉田長裕 大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

E-mail: yoshida@civil.eng.osaka-cu.ac.jp

小委員会専用メールリングリスト

ip-cs@jsce.or.jp

メールアドレスを変更される場合は、事務局までご連絡ください。

小委員会専用ホームページ(開設予定)

<http://www.ip-te.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/cs/>

## 自転車空間研究小委員会名簿

No	氏名	役職	所属
1	山中 英生	代表	徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部
2	久保田 尚	副代表	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境システム工学系
3	屋井 鉄雄	副代表	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 人間環境システム専攻
4	金 利昭	幹事長	茨城大学 工学部 都市システム工学科
5	青木 英明	委員	共立女子大学 建築・デザイン学科
6	阿部 宏史	委員	岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科
7	荒井 祥郎	委員	(財)計量計画研究所 PI 研究室
8	宇佐美誠史	委員	岩手県立大学 総合政策学部
9	大森 高樹	委員	(株)日建設シビル 都市基盤計画部
10	大脇 鉄也	委員	国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路研究部 道路研究室
11	小川 圭一	委員	立命館大学 理工学部 環境システム工学科
12	北瀬 弘康	委員	国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所
13	河村 成人	委員	パシフィックコンサルタンツ(株) 社会政策本部 総合計画部
14	近藤隆二郎	委員	滋賀県立大学 環境科学部 環境計画学科
15	鈴木 美緒	委員	東京工業大学大学院 総合理工学研究科人間環境システム専攻
16	高田 和幸	委員	東京電機大学 理工学部 建設環境工学科
17	塚口 博司	委員	立命館大学 理工学部 環境システム工学科
18	寺内 義典	委員/渉外	国土館大学 工学部 都市システム工学科
19	土井 健司	委員	香川大学 工学部 安全システム建設工学科
20	橋本 成仁	委員	(財)豊田都市交通研究所 調査研究グループ
21	羽藤 英二	委員	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻
22	浜岡 秀勝	委員	秋田大学 工学資源学部 土木環境工学科
23	兵藤 哲朗	委員	東京海洋大学 海洋工学部 流通情報工学科
24	藤原 憲男	委員	パシフィックコンサルタンツ(株) 社会政策本部 道路計画部
25	松原 淳	委員	リソナルコンサルタンツ(株) 東京事業本部
26	三国 千秋	委員	地球の友・金沢/北陸大学 教育能力開発センター
27	三国 成子	委員	地球の友・金沢
28	宮崎 耕輔	委員	高松工業高等専門学校 建設環境工学科
29	元田 良孝	委員	岩手県立大学 総合政策学部
30	森本 章倫	委員	宇都宮大学 工学部 建設学科 建設工学講座
31	和田 章仁	委員	福井工業大学 工学部 建設工学科 地球環境工学専攻
32	吉田 長裕	事務局	大阪市立大学大学院 理工学研究科 都市系専攻

以上 32 名







## 今後のスケジュール

## 1. 土木計画学秋大会 企画セッション・スペシャルセッション

日時：11月1～3日（詳細未定）

場所：和歌山大学

## 2. 平成20年度 ワンディセミナー企画案

## (1) タイトル

「自転車空間整備の展開と課題（仮題）」

## (2) 日時・場所

時期：平成21年1月

時間 13:00 - 17:40

260 + 20 休憩

場所 土木学会

## (3) 内容

1) 自転車の役割と空間整備

20

2) モデル事業の取り組みから・・・

20 × 4

3～4事例を紹介

3) 海外における空間整備と新しい方向について

20 × 4

候補

フランス 地方都市の取り組み

オランダ 新基準

イギリス

中国

4) 我が国における空間整備の方向と課題

80

## 第2回自転車空間研究小委員会 議事録(案)

日時：2008年5月13日(火) 15:00-16:45

場所：共立女子大学本館4F 415会議室

出席者：山中、久保田、金、青木、阿部、大森、大脇、小川、宇佐美、河村、近藤、高田、寺内、土井、羽藤、藤原、松原、元田、森本、吉田(計20名、敬称略)

### 1. 代表挨拶(山中先生)

研究小委員会の設立経緯および趣旨の説明。

### 2. 自己紹介

出席委員の自己紹介と関与事例や関心事の紹介。

### 3. 話題提供

大脇氏より、これまでの国の自転車空間整備の取り組みについて話題提供があり、意見交換を行った。

### 4. 小委員会の活動方針について

#### (1) 学会としての立場について

- ・自転車をめぐる動きや活動にはいろいろあり、商業ベースの話とは区別が必要。
- ・メーカーは、車や原付などパーソナルモビリティ(交通具)の観点からアプローチしており、小委員会は道路(空間)からのアプローチであることを再確認。

#### (2) 活動方針について

- ・当面は、委員長の考え(研究に関わる情報共有の場としての活用)に基づいて、自由に研究・議論を続けることにする。

## 講演会開催記録

事務局

講演タイトル：「ドイツ環境共生都市フライブルクのまちづくりと、自転車を利用した複合型サービス」

講演者：(第一部) マルティン＝マティアス・リュプケ(フライブルク市)(第二部) 村上敦

主催：共立女子大学、土木学会自転車空間研究小委員会、コミュニティバイク研究会

後援・協力：NPO 法人駐輪・駐車場情報センター、NPO 法人日本サイクルラック協会、都市駐車場対策協議会

日時：平成20年5月13日(火) 17:00～19:00(第二回委員会開催後)

場所：共立女子大学神田一ツ橋キャンパス 本館 地階 B101

参加者：105名

## 質疑応答記録

## 第1部

・愛媛大学 寺下さん

「モビレのスタッフにはどのような人が何人いるか？」

50名を雇用。32名が自転車に関する所の従業員(ただし、part time 含む)18名がモビリティセンターの従業員。自転車に関する所の従業員32名中社会福祉関連または元失業者は26名。

「駐輪場はどれぐらい使用されているか？」

70～80%の占有率。無料であれば、別の駐輪場が市内にある。

「出資が1社になった経緯は？」

1番の理由は経済的な理由。経済的余裕があったのはカーシェアリング社だけだったから。経営成績が良くなかったので、カーシェアリング社だけが責任を持ち支援し、フライブルク市にも支援を要請している。

・慶応義塾大学 大久保さん

「利用者はフライブルクの中心に来るのか、それとも他の都市に向かうために使うのか？」

公共交通、駅への近道として、モビレを通行する人が多い。中央駅前には駐輪に関して立地条件が非常に良かった。中央駅からバーゼル等に行くため

## 資料-8

に端末の駐輪場として利用される。市内の中央部に行く人は、中心部に無料駐輪場があるので、(有料の)モビレの駐輪場は利用しない。

### ・ 国土交通省 大脇さん

「モビレの駐輪場の値段は月 10 ユーロ。これは日本の相場の半額だが、これは政治的プレッシャーにより低くなったのか？」

市場では、利用者が理解できる額に設定しており、ドイツでは平均的な値段。ドイツでは自転車はタダでおくものという考えだったので、有料という概念が新しく、十分に理解されていない。東京は土地が非常に狭く、迷惑駐輪などが多く感じられる。フライブルク市も迷惑駐輪が増えてきており、取り締まりも始めているので、徐々に東京の駐輪場の値段に近づいてくると思う。

### ・ 公認会計士 鉄川さん

「モビレの市民への受け入れられ方は？」

多くの市民の関心を集めた。利用者は徐々に増加している。ドイツでは新しいアイデアにはほとんど保守的。将来、魅力度をいかにあげられるかが一番の課題である。それはモビレで働く人間がどれだけのサービスをできるかが鍵となってくる。

「長い間活動を維持するモチベーションは？」

70年代、80年代に、政府で働いていたのが関係している。そこで何かを変えるためには時間が必要であることを学んだ。もうすぐ自分は定年するが、定年後もこのテーマに関わっていかなければならない。

### ・ 東海大学 留学生？

「ドイツやオーストラリアでは、政治家は短いスパンで担当を交代することが多いが、モビレのような長いプロジェクトはどの様にしているのか？」

政治家は短期的な目標をやりたがる。息の長い計画は、市民が粘り強く参加することが大事である。

## 第2部

### ・ 愛媛大学 寺下さん

「フライブルク住民として、学生と地域の折り合いはどのように感じるか？」

学生がいないと寂しく感じる。しかし、夜中にディスコやパーティーなどの騒音問題がある。また、学生はお金を落とさないなので、経営がうまくいかない。しかし、フライブルク市では、大学があることが伝統となっている。学生という存在がフライブルク市では、ポジティブに考えられている。